

平成 31 年度第 1 回（第 14 回）洲本市子ども・子育て会議 議事録

日 時：平成 31 年 4 月 24 日（水） 午後 6 時 30 分～午後 8 時 00 分

場 所：洲本市役所 4 階 401・402 会議室

出席委員（7 名）

松山会長、戸江副会長、須恵委員、阿萬田委員、三宅委員、岡本委員、大橋委員

欠席委員（5 名）

三倉委員、清水委員、柳委員、稲谷委員、山本委員、

事務局（7 名）

健康福祉部子ども子育て課：郡、山崎、近本、津司、出嶋

教育委員会教育総務課：大西

学校教育課：増井

生涯学習課：長谷

- 次 第
1. 開 会
 2. 会長あいさつ
 3. 諮問について
 4. 議題
 - (1) 洲本市子ども・子育て支援事業計画の一部改定について
 - (2) 第 2 期洲本市子ども・子育て支援事業計画策定に向けたニーズ調査結果（素案）の報告について
 - (3) 第 2 期洲本市子ども・子育て支援事業計画策定スケジュールについて
 5. そ の 他
 6. 閉 会
-

1. 開会

2. 委員異動紹介

3. 会長あいさつ

4. 諮問について

5. 前回会議議事録（案）について

6. 議題

◆（1）洲本市子ども・子育て支援事業計画の一部改定について

（事務局より、資料3に基づいて説明）

会 長：安乎は改修ですか？

事務局：安乎は改築です。いまは旧の安乎保育所を使用していますが、転用後は特に修繕等も行っておらず、台風などの強風時には屋根材が飛散したり雨漏りがしたりという状況にありますので、建て替えという形で検討を進めています。

平成31年度で予算を計上して改修を予定しているのは、資料に記載してある3箇所です。他のところも状況に応じて今後検討していく必要があると思っています。

委 員：川西の方が第三幼稚園の利用の要望を出したと聞きましたが、これは難しいのでしょうか。

事務局：幼稚園の再編で、5つあった幼稚園を2つに再編し、3園を閉園しました。その中で、あとの施設の利用をどうするかについて検討を重ねまして、第三幼稚園については、第三小学校の児童数の規模に対して運動場の面積が少ない、送迎用スペースが無いということと、認定こども園の整備にあたって公共施設全体の面積を減じるという条件があり、それらを踏まえて第三幼稚園は第三小学校の運動場を広げるという方向で検討することになりました。残る2園は、児童クラブで活用するという結果になっています。

会 長：運動場を広げるということは、取り壊しでしょうか？

事務局：廃止、取り壊しという方向で進んでいます。

会 長：加茂幼・第一幼が学童保育に変わっていったら、おそらく、「なぜ第三幼だけ取り壊すの？」という意見がすごく出そうな気がします。特に第三小校区は学童保育のニーズも高いので、きちんと丁寧に説明をしていかないといけないのかなと思います。小学校6年生まで学童保育の対象とするというのが国の施策でもありますので、それに対応できるように検討していただけたらと思います。

◆ (2) 第2期洲本市子ども・子育て支援事業計画策定に向けたニーズ調査結果（素案）の報告について

（事務局より、資料4に基づいて説明）

会 長：ニーズ調査をすると、記述回答にもありますが洲本市内は保育施設が足りないというのが出てるのでしょうか。洲本のお母さん方は比較的働いている方が多いのか、保育の利用を希望される方が多いのと、0歳児は育児休業がとれるのでニーズは少ないと思いますが、1歳から利用希望がだんだん増えてくるのかなと思います。

「利用したいが教育・保育施設に空きがない」というのが非常に心苦しいところで、やはり利用したいニーズに対して受け皿を整えていってあげないと、洲本で子どもを生み育てたいという風にはなかなか向いていかないのかなと思います。

副会長：P76の意見のところで、上から2つ目の項目の『子育て支援事業・施策について』で、「子育て支援体制が乏しいように思ってしまう」や「洲本市が一番遅れているように感じる」とあります。これは保護者の感覚なのかもしれませんが、このように感じられるような側面というのは、何か気づかれるところがありますか？

事務局：多子世帯への保育料の軽減というのが2市に比べて一番遅く始めたのですが、両市より少ない金額であったりということでは感じています。受益者負担という観点からも、洲本市では完全に無料ということにはなっておりません。

会 長：これは南あわじ市と比べられてるのかなと思いますが、南あわじ市は国の無償化の制度に先駆けて実施していますので。洲本市も3歳児以上の保育料は特別高いわけではないと思いますし、保育料の軽減も実施されていると思いますが、一旦支払ってから戻ってくるというので負担感があるのかなと思います。その点では、南あわじ市では大きな子育て支援策として実施されています。

保護者の方にはなかなか目に見えてこないところで、提供する保育の時間や内容などでは洲本市がいい部分もありますが、施策として3歳児以上の保育料がゼロというのは魅力的なんだろうと思います。

今年の10月から全国的に無償化になることによって、その感じ方もどう変わってくるのかなと思います。

◆ (3) 第2期洲本市子ども・子育て支援事業計画策定スケジュールについて

（事務局より、資料5に基づいて説明）

7. その他

副会長 あいさつ

8. 閉会

以 上